

まるごと緑計画  
ブラッシュアップ  
事業報告

「まるごと緑」

「まるごと緑」住みよい緑を  
次の世代に繋げる組織

まるごと緑 会長 宮本 秀樹



緑地域は愛媛県の最南端、愛南町（旧城辺町）の山間部に位置し小さな12の地区からなる、稲作と柑橘の生産が盛んな地域です。特に河内晩柑が特産品として有名です。しかし、少子高齢化が進展し、耕作放棄地や空き家なども目立ってきており、今まで継承されてきた文化芸能やコミュニティ活動の存続が危ぶまれています。そのような中、「まるごと緑」は地域内の問題を洗い出し、その問題を受け止め、これからの地域の在り方、理想を話し合うために結成されました。緑地域の有志27人で構成されており、地域の特性を活かし協働・共助・互助によるコミュニティの構築を目指しています。地域の内外の人たちとの交流の場として、緑ふれあい広場の整備や、県内の地域づくり団体とも連携して、さまざまなイベントを実施しています。

地域住民の思いを知るために

計画中の個別事業をより地域に合ったものにするために「不安・心配事・地域課題等評価社会調査手法開発・設計事



事業説明会の様子

業（まるごと緑計画ブラッシュアップ事業）を愛媛県及び愛南町の支援を受けて実施しました。愛媛大学社会共創学部（羽鳥剛史准教授の協力を得て、地域住民の不安や心配事、地域の課題等の社会調査手法を開発・設計しました。また、羽鳥准教授には「地域づくりへのトランスディプリナリー・アプローチ」と題して、講演会を開催しました。

地域に暮らす全員の幸福のために

人口統計に基づき10代〜70代の緑地域住民60名を対象に、約一週間をかけて聞き取り調査を行いました。この調査は緑地域の住民が、地域で暮らすうえで抱えている不安や心配事を把握することが目的です。この調査の結果から、地域住民の幸福感向上を目指すために、行政サ



住民への聞き取り

ビスに対する不安を払拭し、地域住民が日常生活や他者との関係性に不安を感じないようにすることが大切であると考えられました。この事業成果をもとに、来年度は地域住民と行政が話し合い、合意を形成する「新しい公共」のモデルの創造と実践を行っていきます。そして、先人の行いを見習って地域に埋もれている資源を掘り起こし、次の世代に繋いでいきます。